

ユーモア(2)

円熟した教師の要件の一つである「ユーモア」について毛涯章平先生は、「子どもの小さな悩み事を、ある一定の高みから余裕をもって眺め、それを軽く受け流すことによって、子どもの緊張と苦悩を解きほぐす能力」と説明している。

私の家系は祖父も父も、髪が薄い。私の髪が薄いのは間違いなく遺伝だ。H中学校で教頭をやらせていただいている時には、かなり進んだ状態になっていた。

多くの中学校で、職員室の清掃は3年生が行う。H中学校もそうだった。清掃が終わると3年生の女子生徒が私のところにきて、こう言った。

「教頭先生、髪短くしたんですね」

私は散髪屋に行き、薄くなった髪ではあるが少しさっぱりとしていた。私はこう答えた。

「そうなんだ。最近髪の毛が多すぎて困っていたから」

すると女子生徒は、笑うのは失礼と思ったのか、少し顔を伏せ、吹き出すのを我慢しながら職員室を出て行った。

それから数日の間、廊下で3年生の女子に会うたびに私は声をかけられるようになった。

「教頭先生、髪短くしたんですね」

私は、お決まりの台詞で答えた。

「最近、髪の毛が増えちゃって困っているんだ」

女子生徒は、顔を見合わせご満悦の表情である。きっと、あの子から、教頭先生にこういう質問をすると、おもしろいよ、と聞かされていたのだろう。うれしそうにしている生徒を見ると、こちらも楽しくなる。

次に散髪するのは半年後になるだろう。その時は違う答を用意しないとイケない。